萬運輸

品質事故防止を強化

CS向上へ100日キャンペ

本社に掲示された安全ボードについて説明する佐賀・安全マネジメント係長代理

全営業所で情報共有

【神奈川】萬運輸（東海林憲彦社長、横浜市鶴見区）は、品質事故防止に向けた取り組みを強化している。2月1日～5月10日の100日間、品質事故撲滅キャンペーンを展開。全営業所で交通事故・労働災害に加え、商品破損や納期遅れといったトラブル防止と情報共有を図り、顧客満足度（CS）向上を目指す。

（吉田英行）

交通事故の撲滅キャンペーンはこれまでも実施しており、一定の効果を確認。半面、品質事故削減が予想より進んでいないことから、品質に特化したキャンペーンで、現場作業のチェックやマニュアル見直しを進めることにした。

期間中、交通事故や労災のほか、①商品破損②誤配・遅延・積み残し③オイル漏れなどの環境事故④マナーや身だしなみに関するクレーム――について、営業所別に毎月、件数と100万㎞走行当たりの件数（PPM）を集計。本社と運輸部門4営業所の安全ボードに掲示している。事故ゼロ連続日数も毎日更新して表示。期間中の目標は、前年同期比半減を掲げる。

一方、ドライバーは帰庫後、デジタルタコグラフの評価ランクや事故の有無を個人表に手書きで毎日記入。これを習慣化させ、安全意識の向上につなげるのが狙いだ。

また、安全ボードには今月の事故事例と、前年同月に発生した事故事例をイラストや図入りで掲載。時期的に起きやすい事故について全営業所で情報共有を図るとともに、クレーム事案も図入りで解説して水平展開している。周知徹底のため、ドライバーは必ず確認済みのサインをすることになっている。

このほか、ドライバーにはヒヤリ・ハット報告書の積極的な提出も要請。発生日時、場所、状況、略図、原因分析を記入してもらい、これに対し管理者がコメントを記入する。報告の件数は計400件に達したが、更に多くのヒヤリ・ハット情報を収集できるようにする。

安全管理を担当する佐賀建夫・安全マネジメント係長代理は「全ドライバーに安全ボードへの記入を徹底させるのは大変だったが、既に習慣化されており、意識は確実に高まっている。取り組みを継続するためには、キャンペーン終了後に表彰を行い、『きちんとやったことに対し、会社は評価している』ことを伝えるのが大切」と話している。

インクザイラットデト

小山営業所に2台導入

企業イメージ向上にらむ

【神奈川】萬運輸は4月から、大型ウイング車のデザイントラック2台を小山営業所（栃木県小山市）に導入している。今後、デザイントラックを順次増やし、企業イメージ向上や将来的な人材確保など、デザイントラックの様々な活用方法について検討していく。

今回導入した2台は、同社グループの自動車整備会社が持つオートボディープリンターを使ってプリント・ラッピングと異なり低コストで制作でき、何度でも描き換えられるのが特徴だ。小山営業所に配備され、関東一円での自動車部品輸送に使われる。

デザインはフリー素材を使い、車体には「デザイントラックは社会を豊かにする新しい取り組みです」とのキャッチフレーズを入れて、デザイントラックの付加価値をアピール。アオリ部分には、自動車メーカーが定めたフォークリフト基準を意味する項目を記載し、荷役作業時の事故防止を図っている。

キャッチフレーズを入れて、デザイントラックの付加価値をアピール

自社や運送業界のイメージアップを目指すと同時に、トラックに対する親しみを持ってもらい、中長期的な人材確保につなげるなど、様々な活用方法を社会と共に考えていく。

同社の保有車両数は135台で、デザイントラックは今回の2台を含め計4台となる。東海林憲彦社長は「デザイントラックを通じて安全、品質向上、イメージアップに結び付けるためには、まずデザイントラックがたくさん走ることが必要。今後も順次増やしていきたい」と話している。

（吉田英行）